琉球大学学術リポジトリ

復帰準備（対内）（政府調査団派遣等）－防衛庁、防衛施設庁－(3)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-01-29 キーワード (Ja): 復帰準備, 防衛庁, 沖縄調査団, 試射場 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43393

（友情出演：夏兰岛居民）

取扱注意

5 アメリカ局長
1 参事官
3 [illegible]
2 安全保障課長
北米第一課長

防衛施設庁沖縄現地調査団（労務関係）派遣について

昭45.5.12
米北1（佐藤）

（米次）
防衛施設庁の沖縄現地調査団（労務関係）派遣計画につき、12日、同庁より別紙の（旧案）通りの計画案を送付越したところ、内容的には問題ないと思料されるので、右につき下記要領により準備を進めることといたしたい。

なお、本件調査団の高等弁務官、民政官等への挨拶は不要と考えますので、その旨防衛施設庁にも伝えたいと思います。

記

1. 総理府との関係

明13日午前の千葉課長と岸総務課長の労務問題についての打合せの席上、当方より説明、当方の原則的了解をとる。その上で防衛施設庁より総理府に対し直接便宜供与依頼を行わせしめる。

2. 米側との関係

明13日午後の東郷・スナイダー会談の席上、当方より本件概略を説明し、当方の原則的了解をとったうえで、佐藤が防衛施設庁労務企画課小林補佐とともに在京米大シュミッツ書記官に計画詳細を説明、米側における具体的スケデュール案作成を依頼する。

3. 沖縄現地との関係

(1) 上記2の在京米大との話合いを終えた上

3

で、準備委員会高瀬代表に訓令し、現地スケデュールの詳細についての現地米当局との打合せを行わせるほか。

なお、宿舎確保、及び琉球政府とのアポイントメント取りつけ等については、従来通り沖縄事務局に行わせしめることとし

準備委当方代表部に対しては沖縄事務局との連絡調整を訓令する。

GA 6　　外務省

秘密表示（朱印）
秘
無期限

部数指示	発信用	執務用	備考
主信	1	1	
付			
属			

発送（日）処理日　昭和45年5月18日
発信　タイプ

文書課長

公信案　（分類　）

公信番号　米北1第13号　公信日付　昭和45年5月18日

大臣
政務次官
事務次官
外務審議官
外務審議官
官房長

主管
アメリカ局長
参事官
北米第一課長

起案　昭和45年5月15日
起案者　電話番号
446

協議先
米務長

受信者　沖縄復帰準備委員会
日本国政府代表

発信者　外務大臣

写送付先

（希望発送日）　月　日

件名　防衛施設庁調査団の派遣　OK

GA-2　18 310　回覧番号

東洋公信佐藤が携行の上現地準備委事務局に説明することといたしたい

＊ 秘密標準（赤色）

米北1第13号

昭和45年5月18日

沖縄復帰準備委員会
日本国政府代表 殿

外務大臣

（件名）防衛施設庁調査団の派遣

引用公・電信日付・番号	

防衛施設庁は、5月28日より6月6日に至る間 金山労務連絡官以下5名より成る調査団を嘉手納に派遣し、米軍合同委員会に関する (1) 法律制度 (2) 労務管理機構 (3) 賃金制度 等に関し、実情調査

※ 付属添付 ✓　付属空便（行）□　付属空便（DP）□　付属船便（貨）□　付属船便（郵）□

（※印は文書課記入）

GA-2-1　外務省

及び資料収集に当たらしめることとしたので、委細別紙により御了知の上、準備委員会において、なるべく米側と協議し、措置ありたい。（右作調査団派遣については、15日衆議院において右米国大使館には概略説明済み。）

なお、本調査団員中 小林補佐は26日出発し嘉手納に赴き、総務長官に同行し嘉手納を訪問する右米軍基地整理縮小作業特別委員会、事務調整にあたる予定である。

追って、本調査団については高官留保、琉球政府関係者とのアポイントメント取付け等は沖縄事務局により行なうこととなっているので、適宜同事務局と調整ありたい。

GA-4　外務省

秘密表示（朱印）

秘
無期限

部数指示	発信用	執務用	備考
主信	1	1	
付属	なし		

発送日 昭45年6月8日
処理日
発信 | タイプ | 校

文書課長

公信案 （分類 ）

公信番号	米北1 第 21 号	公信日付	昭和 年 月 日 昭和45年6月6日

大臣
政務次官
事務次官
外務審議官
外務審議官
官房長

主管
アメリカ局長
参事官
北米オ一課長

起案 昭和45年6月3日

起案者 電話番号 446

協議先

米保長
条約局長
条規局長

受信者	発信者
在沖縄 高懶大使	奄知大臣
写送付先	（希望発送日） 月 日

件名 防衛施設庁調査団の派遣

GA-2

6 211 外務省

回覧番号 1181

＊ 秘密標準（赤色）

米北1 第21号
昭和45年6月 6日

沖縄復帰準備委員会
日本国政府代表 殿

外務大臣

（件名）
防衛施設庁調査団の派遣

引用公・電信日付・番号	5月18日付往信 米北1オ13号

本件調査団については、その後米側の要望により、貴地への派遣時期を若干延期し、6月16日より25日まで（但し、団員中小林補佐は14日先発し、岡本補佐は19日後発する）となるので、善処

※印は文書課記入

※ 付属添付 ✓ 付属空便（行）□ 付属空便（DP）□ 付属船便（貨）□ 付属船便（郵）□

GA-2-1

外務省

別紙により御了知の上、留意往信
記載のとおり、沖縄事務局とも調
整しつつ、準備委員会において十分
なるべく協議し、措置ありたい。
なお、本件調査団の派遣及び
前記派遣期間については、在米
国大使館より異存なき旨申し越し
ているので、念のため申し添える。

第一次調査団　日程

1 構成員

氏　名	官　職	等　級	生年月日
金山　喜八郎	防衛庁事務官　労務連絡官	（行一）2	大、8. 6.26
小林　和夫	〃　労務企画課課長補佐	3	昭、6. 6.23
鳥羽浜雄	〃　労務管理課　〃	3	昭、41.1.18.
深作　和夫	〃　労務給与課　〃	3	昭、4. 1.22
岡本政勝	〃　会計課　〃	3	大、15. 7.16

2 行動予定

月　日	行　動　先　：　行　動　予　定
6.16（火）	調査団出発　(1)復帰準備委（挨拶、打合せ）　(2)沖縄北方対策庁沖縄事務局（挨拶、打合せ）　(3)琉球政府（挨拶）　(4)先遣員と行動打合せ
〃17（水）	(1)ジャゴブソン四軍合同委議長（挨拶）　(2)ウイシンジャー労働局長（挨拶）　(3)パーク調整官（挨拶）　(4)総括調査（四軍共通事項）ー米民政府
〃18（木）	(1)陸軍司令部民間人事部部長（挨拶）　(2)個別調査ー陸軍司令部
〃19（金）	(1)空軍司令部民間人事部部長（挨拶）　(2)個別調査ー空軍司令部
〃20（土）	(1)琉球政府（協議ー行政能力）
〃21（日）	
〃22（月）	(1)海軍司令部民間人事部部長（挨拶）　(2)個別調査ー海軍司令部
〃23（火）	(1)海兵隊司令部民間人事部部長（挨拶）　(2)個別調査ー海兵隊司令部
〃24（水）	(1)今回調査結果次回調査予定協議ー米民政府　(2)ジャ四軍合同議長、ウ労働局長、パ調整官（離琉挨拶）
〃25（木）	(1)準備委（協議、離琉挨拶）　(2)沖縄事務局（協議、離琉挨拶）　調査団帰京

（注）　必要あれば沿岸警備隊についても調査

3 先遣員

小林労務企画課課長補佐、6月14日出発、
現地にて事前準備を行う（6月15日午前復帰準備委、沖縄事務局、午后米民政府、在琉球四軍各司令部）

4 後発員

岡本会計課課長補佐、6月19日出発、

アメリカ局長
参事官
北米第一課長

2

防衛施設庁書式 75

施本第1439号（CGP）
昭和45年6月10日

外務省
アメリカ局長 殿

防衛施設庁長官

沖縄出張について（通知）

標記について、下記のとおり沖縄へ出張させることとしたので通知します。

記

1 出張者：防衛施設庁労務部労務連絡官
防衛庁事務官 行政職(一)2等級
金山 喜八郎

防衛施設庁労務部労務企画課課長補佐
防衛庁事務官 行政職(一)3等級
小林 和夫

防衛施設庁労務部労務管理課課長補佐
防衛庁事務官 行政職(一)3等級
鳥羽浜 雄

防衛施設庁労務部労務給与課課長補佐
防衛庁事務官 行政職(一)3等級
深作 和夫

防衛施設庁総務部会計課課長補佐
防衛庁事務官 行政職(一)3等級
岡本 政諦

2 出張期間：昭和45年6月16日から
同 年6月25日まで
ただし、小林補佐は6月14日から
6月25日まで及び岡本補佐は6月
19日から6月25日まで

3 出張目的：米国民政府及び琉球政府との業務打合せ

以上

別添：1 日程表
2 経歴書

本信あて先：外務省アメリカ局長
沖縄北方対策庁長官

要処理
首席事務官
渉外調査
漁業
航空
科学協力
連絡調整
調査
力ナダ
局長

外務省接受 45.6.12

B4 44.4.9—30,000 CGG 総務課経由番号 84

日　程　表

月　日		訪　問　先	滞在地	備　考
45 6.14 (日)			那　覇	小林出発
6.15 (月)		復帰準備委員会、沖縄北方対策庁 沖縄事務局、米国民政府及び在琉 球4軍各司令部と事前打合せ	〃	
6.16 (火)		復帰準備委員会 沖縄北方対策庁沖縄事務局 琉球政府	〃	金山、鳥羽、深作 出発
6.17 (水)		米国民政府	〃	
6.18 (木)		在琉陸軍司令部	〃	
6.19 (金)		在琉空軍司令部	〃	岡本出発
6.20 (土)		琉球政府	〃	
6.21 (日)			〃	
6.22 (月)		在琉海軍司令部	〃	
6.23 (火)		在琉海兵隊司令部	〃	
6.24 (水)		米国民政府	〃	
6.25 (木)		復帰準備委員会 沖縄北方対策庁沖縄事務局 帰　国	〃	

経　歴　書

氏　　名：金　山　喜八郎

階　　級：防衛庁事務官

生年月日：大正8年6月26日

現　　職：防衛施設庁労務部労務連絡官

本 籍 地：東京都練馬区東大泉町94/番地

現 住 所：東京都練馬区東大泉町94/番地

最終学歴学位：中央大学法学部　法学士

略　　歴：昭和13年　6月　逓信省

〃　24年　4月　人事院

〃　29年　1月　保安庁

〃　39年　4月　防衛施設庁労務部労務企画課課長補佐

〃　43年10月　防衛施設庁労務部海外労務監督官

〃　44年10月　防衛施設庁労務部労務連絡官

家　　族：5名

海外渡航歴：アメリカ合衆国（昭．27.7～28.6）留学

経　歴　書

氏　　名：小　林　和　夫

階　　級：防衛庁事務官

生年月日：昭和６年６月２３日

現　　職：防衛施設庁労務部企画課課長補佐

本 籍 地：埼玉県北足立郡吹上町吹上２３４６番地

現 住 所：神奈川県藤沢市辻堂西海岸１丁目５番
ＲＢ２３号

最終学歴学位：中央大学法学部　法学士

略　　歴：昭和２９年　７月　調達庁

〃　３３年　３月　札幌調達局総務部会計課経理係長

〃　３９年１０月　名古屋防衛施設局施設部施設取得課課長補佐

〃　４２年１０月　防衛施設庁労務部労務企画課総務専門官

〃　４３年１０月　防衛施設庁労務部労務企画課課長補佐

家　　族：３名

海外渡航歴：なし

経　歴　書

氏　　名：鳥　羽　浜　雄

階　　級：防衛庁事務官

生年月日：昭和4年11月18日

現　　職：防衛施設庁労務部労務管理課課長補佐

本 籍 地：長野県東筑摩郡本郷村大字浅間236番地

現 住 所：東京都目黒区東山2丁目22番地9－14

最終学歴学位：東京大学農学部　農学士

略　　歴：昭和28年　5月　調達庁

〃　33年　6月　横浜調達局事業部労務実地監督官

〃　36年　8月　札幌調達局不動産部企画課課長補佐

〃　41年　4月　福岡防衛施設局事業部特別補償課長

〃　43年10月　防衛施設庁労務部労務管理課課長補佐

家　　族：3名

海外渡航歴：なし

経　　歴　　書

氏　　名：深　　作　　和　　夫

階　　級：防衛庁事務官

生年月日：昭和4年1月22日

現　　職：防衛施設庁労務部労務給与課課長補佐

本 籍 地：横浜市鶴見区生麦町203

現 住 所：東京都立川市曙町3丁目216
防衛庁官舎916

最終学歴学位：中央大学法学部　法学士

略　　歴：昭和21年12月　全国中等学校教員工業教員組合連合会

〃　27年　9月　関東地方建設局

〃　29年　8月　調達庁

〃　35年　2月　横浜調達局不動産部企画課企画係長

〃　38年10月　東京防衛施設局施設部施設企画課課長補佐

〃　39年　6月　防衛研修所総務課課長補佐

〃　42年10月　防衛施設庁労務部労務給与課課長補佐

家　　族：5名

海外渡航歴：沖縄（昭．41.5.16～41.5.20）研修

経　　歴　　書

氏　　名：岡　　本　　政　　齢

階　　級：防衛庁事務官

生年月日：大正15年7月16日

現　　職：防衛施設庁総務部会計課課長補佐

本 籍 地：東京都港区芝三田豊岡町60番地

現 住 所：東京都板橋区清水町92
清水住宅11－108

最終学歴学位：広島県立加計実業学校

略　　歴：昭和20年 4月 大阪営林局
〃 21年 3月 戦災復興院
〃 22年 9月 特別調達庁
〃 27年 7月 警察予備隊
〃 37年11月 防衛施設庁総務部会計課予算第三係長
〃 41年10月 名古屋防衛施設局総務部会計課課長補佐
〃 43年10月 防衛施設庁総務部会計課課長補佐

家　　族：2名

海外渡航歴：なし

秘
無期限

アメリカ局長
参事
北米オ一課長

防衛施設庁の訪沖調査団派遣に関する新聞発表ぶりんついて

45. 6. 11
北米1

本件に関し防衛施設庁小林労務企画課補佐より次のとおり発表連絡があった。

1. 施設庁は沖縄問題に関し当方との申合せにより報道管制をしいているが、来る16日訪沖する調査団については、13日(土)下記3.のとおり簡単な発表を行なうことを予定している。

2. 本11日閣僚よる地位協定に関する会同懇談会のあと、長官の定例記者会見(午後2時頃)があるが、同庁としての発表事項は余りないので、長官は前記調査団の派遣について触れることになるかも知れない。(長官は調査団の派遣について積極的に発言する意向はない。)その際は長官に対し下記3.以外に具体的なことは言わないよう念を押してあるので了承願いたい。

3. 調査団派遣に関する施設庁発表文

沖縄に対する施政権の日本政府への移転に際し、沖縄における軍労働調達管理が本土方式に円滑に移行されるよう復帰準備の一環として次のとおり沖縄軍労働に関する基本的調査を実施することとする。

(1). 主な調査事項

(イ). 軍労働に関する法制
(ロ). 軍労務管理機構

GA 6
外務省

(1), 軍労働者の管理機構

(2). 調査先
民政府、米軍、琉球政府

(3). 調査の構成
金山労務連絡官以下5名

備考. なお、前記発表文は本11日(木)午後2時
当課に持参される。

防衛施設庁相馬当務企画課長に対し
(イ)本日の池山上長官の閣議後会見で本件訪問団
が派遣されることは厳に秘密とすること、(ロ)本件訪問
団の訪問先(発表されない方のものを含む)については、すべて当方と協議の上、決め
ること、その上で行なうことを依頼したところ
了承した旨入れ、之方もうけた。(カトウ)

GA 6

外務省

(回覧番号 1306) 外務省電信案 (分類)

電信課長 (漢)

機密表示(極秘・秘の朱印) 秘

符号表示 暗 (略) 平

※総第 35090 号

※第 85 号

※昭和 年 月 日 時 分発 45.6.13 10:50

(※印欄内は電信課記入)

大至急・(至急)・普通・LTF

※発電係

大臣
政務次官
事務次官
外務審議官
外務審議官
官房長

主管
アメリカ局長
了 参事官
北米第一課長
了 多田事務官

主管局部課(室)名 北米1

起案 昭和41年6月13日

起案者 112中 電話番号 445

協議先
了 条約課長
了 法規課長
了 安全保障課長

(注) 施政権返還に関する日米協議の開催に関する件

(大使) 臨時代理大使
在 沖縄高瀬 総領事 代理
あて 福田外務(代理)大臣 発

電報 在 大使 総領事 臨時代理大使 代理 あて

件名 防衛施設庁調査団に関する新聞発表

往信来北1才21号に関し

防衛施設庁は、13日午前10時の定例記者会見において、本件調査団の沖縄派遣に関し下記のとおりの発表を行なった。(但し新聞発表は14日の朝刊(おくり仮名のTentativeを除く))

(※印欄内は電信課記入)

(※)(未報告)機関に対し発表は明十四日午前朝刊とする旨申し合せ(昭和四二七一改正)

写済

13 133

197

なお、新聞発表文については、在京米大使館の了解取付け済。

記

施政権返還時における沖縄に対する地位協定適用を円滑に行なうための準備の一環として、次のとおり沖縄軍労に関する基礎的調査を実施することとする。

1. 調査事項
   (1). 軍労働に関する法制
   (2). 労務管理機構
   (3). 軍労働者の概況
2. 調査先
   (1). 米国民政府
   (2). 在琉球米軍
   (3). 琉球政府

3. 調査期日

6月16日より同25日まで

4. 調査団の構成

労務連絡官	金山喜八郎（かなやま きはちろう）
労務管理課長補佐	小林和夫（こばやし かずお）
労務管理課 〃	鳥羽源蔵（とば はまお）
労務給与課 〃	深作和夫（ふかさく かずお）
会計課 〃	岡本政諦（おかもと まさあき）

秘
無期限

条約課長
安全保障課長
アメリカ局長
参事官
北米第一課長

防衛施設庁の訪沖調査団について

45. 6. 11
北米1

本11日(木)午後2時防衛施設庁小林補佐(労務企画課)は当課を来訪、本件に関し下記資料を提示した。同補佐によれば、6月9日同補佐が在沖米軍司令部にクロンゼント大佐を往訪した

が、同大佐不在のためコンプトン中佐に面接し申請調査団の日程等を伝え便宜供与方依頼したところ、

同中佐は直ちに沖縄米軍のジャコブソン四軍公団委員長と電話連絡した結果、同委員長は(6月17日)調査団の往訪予定日より不在(古巣)であり、また、6月15及び16の両日は全軍労との団体交渉で多忙であると述べた由で、米軍はお詫

追って在沖米軍司令部においては適任者がおらず軍司令官の故郷ホノルルに帰るため6月13日頃当方に来訪するよう申し入れておいた。

査団の訪沖には冷淡であるとの感じを受けた趣である。

なお、お詫査団を伝え全山労書連絡官は、明12日(金)午前中、千葉北米第一課長より

宮川安全保障課長を挨拶に来訪する由である。

記

1. 沖縄軍労働に関する調査計画並びに業務処理計画(原則として別途回覧願う)

2. 現地報道機関用設問と応答要(注)御意見をお伺いしたい由。

3. 6月13日(土)調査団訪中に関する新聞発表文(案)

コメント書き込み

取扱注意

新聞発表
要旨を事前に回覧

6/13 (11:40)
防衛施設庁より入手

記事資料

昭和45年6月13日
防衛施設庁労務部

沖縄軍労働に関する調査団派遣について

（趣旨）

施政権返還時における沖縄に対する地位協定適用を円滑に行なうための準備の一環として、次のとおり沖縄軍労働に関する基本的調査を実施することとする。

（主たる調査事項）

1　軍労働に関する法制度
2　労務管理機構
3　軍労働者の概況

（調査先）

1　米国民政府
2　在琉球米軍
3　琉球政府

（調査期日）

45年6月16日(火)～6月25日(木)

（調査団）

労務連絡官		金山喜八郎
労務企画課課長補佐		小林和夫
労務管理課	〃	鳥羽浜雄
労務給与課	〃	深作和夫
会計課	〃	岡本政雄

以上

取扱注意

記事資料

昭和45年6月13日
防衛施設庁労務部

沖縄軍労働に関する調査団派遣について

（趣旨）
沖縄に対する施政権の日本国政府への移転（施政権返還時における沖縄に対する地位協定適用を円滑に行なうための）に際し、沖縄における軍労働の調達、管理が本土方式に円滑に移行されるよう、復帰準備の一環として、次のとおり沖縄軍労働に関する基本的調査を実施することとする。

（主たる調査事項）
1　軍労働に関する法制度
2　労務管理機構
3　軍労働者の概況

（調査先）
1　米国民政府
2　在琉球米軍
3　琉球政府

（調査期日）
45年6月16日(火)～6月25日(木)

（調査団）

労務連絡官		金山喜八郎
労務企画課課長補佐		小林和夫
労務管理課	〃	鳥羽浜雄
労務給与課	〃	深作和夫
会計課	〃	岡本政諦

~~（注）　外務省、沖縄北方対策庁からも参加する。~~
沖縄事務局の人たち由。

以上

取扱注意

（問一）調査団来沖の目的は、

（答）軍労働に関する実態を把握することである。
（注）実態（制度の実態
（更に言及のある場合）
今回は初度調査であるので、
※軍労務に関する実態の把握を把握すること
（本線の趣旨）
に重点をおきたい。

（問二）五月下旬に来沖した山中総務長官は、現地における記者会見において復帰後における軍労働者の雇用形態に触れ、いわゆる特別調達庁方式構想を明らかにしたが、これと本調査団の関係は。

（答）本土における軍労働に関する主たる監督官庁そして沖縄の復帰後における軍労働の実態を体系的に把握することが必要である。
我々の使命もこの必要に基づくものである。
東京事務所における中間形態を検討することは復帰後における中間描置として本調査団の使命にふくまれていない。

（問三）防衛施設庁は復帰後における中間描置として、どのようなことを考えているか。

（答）何か特別の中間的措置を考えているかという御質問であれば、防衛施設庁は、そのような中間的な立場にはないが、施政権返還に伴い地位協定等関連する諸取極めがそのまま沖縄にも及ぶことと承知している。

（十二時半、沖縄の軍雇用形態も沖縄帰属後の中間措置として地位協定下の関係雇用に

取扱注意

取扱注意

移転先となるこのような施設をどこに作るかについては、本当に苦労しました。

（答）

（問四）現地米側との軍労働に関する検討を進めてきたが、いわゆるI-HA方式を考えている旨説もあるが、これについてはどうか。

（答）

そのような方式があるかどうかについては我々は直接これを耳にしたことはない。

（更に言及の要ある場合）

現地米軍当局との間で排水処理施設の建設方式をどのように考えているか。

（答）

防衛施設庁としては、本土並み間接雇用を目途として、意見を求めることとしたい。

（問五）防衛施設庁は復帰後の雇用方式をどのように考えているか。

（答）

防衛施設庁としては、本土並み間接雇用を目途として、意見を求めることとしたい。

（問六）全軍労と話し合うか。

（答）

我々の使命は軍労働の実態を把握することにあるのであって、特定の問題については、いずれの立場にもない。

（問七）復帰後、沖縄県に事務委任がなされるか。

（答）

現在、本土においては防衛施設庁が所掌する事務の一部を関係都道府県に委任して実施している。格別の事情のない限り、沖縄県についても同様であろうが、今後具体的に検討されよう。

取扱注意

取扱注意

（問）復帰ずみ準備機関を現地に設置し
移行から相当日数経過するにもかかわらず、これが
（答）新聞報道については、私どもも
この問題であります。いずれにせよ、
の内容的な引き継ぎ
の問題については、我々としては
立場にはない。
（問九）調査の方法如何
（答）「土曜の記者会見と同じ」
なお、現地で調査結果の発表をすべきか
場合は「本部に持ち帰って」と答えます。
「今回の調査は、今後の行政のための資料収集を
目的としたものであり、調査結果を公表することは考
えていない」

取扱注意

秘
無期限

アメリカ局長
参事官
北米オ一課長

防衛施設庁の沖縄調査団の
報道内容元署名簿について

45. 6. 15.
北、北一.

6月15日 防衛施設庁 労務企画課(関谷事務官)に対し、右件元署名簿に関し
別紙 要望どおり 訂正すべく入手
したる 後刻 同庁より 右訂正のとおり
にて 当館が あるが そのように取りはからう旨
返答 ありたく 念のため。

GA-5 外務省

(回覧番号) 外務省電信案 (分類)

電信課長 漢

機密表示(極秘・秘の朱印)

符号表示 暗 略 (平)

※総第 34755 号

※第 81 号

※昭和 年 月 日 時 分発 45.6.12 22.14

大至急・(至急)・普通・LTF

※発電依頼 10

主管 アメリカ局長 参事官 北米オ一課長

主管局部課(室)名 北米1

起案 昭和44年6月12日

起案者 112中 電話番号 445

大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長

協議先

在 沖縄 高等弁務官(大使) 総領事 臨時代理大使 代理 あて 福田 外務大臣 発 (代理)

電報 在 大使 総領事 臨時代理大使 代理 あて

件名 浜中事務官の出張

往信米北1オ21号に関し
防衛施設庁 本件調査団の補佐及び事務打合せのため、
浜中(はまなかおかず)季一事務官(北米オ一課)を下記日程により
当地に 出張せしめるにつき、宿舎留保ありたし。

記

写 済
12 211
74

(昭和四二・七・一 改正)

GB-1

6月14日 那覇着 全JL/721便
同 18日 那覇発 全JL/906便

(7)

GB-8 外務省

北米第一課長
よろしきおねがい

防衛施設庁調査団の日程について

45. 6. 13
北米1

本13日(11:45)在沖縄岡野書記官と電話連絡した結果次のとおり。

6月15日(月)当地の小林補佐・鈴木一等書記官が09:30ジエイコブソン四軍合同委員会のオフィスを訪れ、滞沖中の日程細部につき、米側と協議することとなつた。なお、米側はウイシンジャー労働局長の他、関係官の大部分がこれに出席する。

なお、英文のSurvey planは当方手交済の由。

(注) 防衛施設庁の調査団(7名)は小林補佐を長として関係官が代行する由。

GA 6 外務省

第一次調査団　日程

1 構成員

氏　名	官　職	等　級	生年月日
金山喜八郎	防衛庁事務官　労務連絡官	(行一) 2	大、8. 6.26
小林和夫	〃　労務企画課課長補佐	3	昭、6. 6.23
鳥羽浜雄	〃　労務管理課　〃	3	昭、41.1.18.
深作和夫	〃　労務給与課　〃	3	昭、4. 1.22
岡本政諦	〃　会計課　〃	3	大、15. 7.16

2 行動予定

月　日	行動先：行動予定
6/16(火)	調査団出発　(1)復帰準備委(挨拶、打合せ)　(2)沖縄北方対策庁沖縄事務局(挨拶、打合せ)　(3)琉球政府(挨拶)　(4)先遣員と行動打合せ
〃17(水)	(1)ジャゴブソン四軍合同委議長(挨拶)　(2)ウィンジャー労働局長(挨拶)　(3)パーク調整官(挨拶)　(4)総括調査(四軍共通事項)－米民政府
〃18(木)	(1)陸軍司令部民間人事部部長(挨拶)　(2)個別調査－陸軍司令部
〃19(金)	(1)空軍司令部民間人事部部長(挨拶)　(2)個別調査－空軍司令部
〃20(土)	(1)琉球政府(協議－行政能力)
〃21(日)	
〃22(月)	(1)海軍司令部民間人事部部長(挨拶)　(2)個別調査－海軍司令部
〃23(火)	(1)海兵隊司令部民間人事部部長(挨拶)　(2)個別調査－海兵隊司令部
〃24(水)	(1)今回調査結果次回調査予定協議－米民政府　(2)ジャ四軍合同議長、ウ労働局長、パ調整官(離琉挨拶)
〃25(木)	(1)準備委(協議、離琉挨拶)　(2)沖縄事務局(協議、離琉挨拶)　調査団帰京

(注)　必要あれば沿岸警備隊についても調査

3 先遣員

小林労務企画課課長補佐、6月14日出発、
現地にて事前準備を行う(6月15日午前復帰準備委、沖縄事務局、午后米民政府、在琉球四軍各司令部)

4 後発員

岡本会計課課長補佐、6月19日出発、

ソカ　万大
ヒ　博阪

注　意
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については本関班に連絡ありたい。

極秘

電信写

205

総番号(TA) 27705
70年 6月17日 18時20分 沖縄 発 主管 米北1
70年 月 日 21時57分 本省 着

外務大臣殿　高瀬　大使　臨時代理大使　総領事　代理

防衛施設庁調査団（日程）

第138号　略

貴信米北一第21号に関し

本件調査団の17日以降の日程概要次の通り。（日程表空送する）

17日　民政府労働局長による関係布告及び労働情勢、事情についての一般的説明ならびに右に関する討議。

18日　民政府法務局による法律関係の説明、パーク弁護用調整官とのとん談。

19日　米軍基地視察（NAHA PORT、MACHINATO SERVICE AREA、CAMP BOONE、CAMP MERCY、CAMP SUKIRAN、KADENA AIR BASE、CAMP HAGUE、CAMP COURTNEY、WHITE BEACH）

20日りゅうきゅう政府当局者とのとん談。

22日　JSLOによる労務管理、労務問題等に関する説明と右に関する討議。

大臣官房 総務課 次官 事務次官 外務審議官 総人 儀典 領事 文化 会計 経済 国際資料 国連 条約 参事官 調査企画 参事官 領事移住 参事官 地域 中南米 参事官 北米 参事官 北米 参事官 中南欧 参事官 西欧 参事官 東欧 参事官 近アジア 参事官 近アジア 次官 経済 国際経済 参事官 経済協力 参事官 技術協力 国連 参事官 国連 参事官 軍縮 参事官 情報文化 参事官 情報 参事官 文化 参事官

外務省

注　意
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については本関班に連絡ありたい。

極秘

電信写

23日　各軍の労働慣行についてJSLCと討議、JSLCによる賃金体系についての説明。

24日　労働問題及び在日・りゅう米軍の労務管理機構についての比かく対照について討議。

25日　自由（調査結果報告を予定）

(了)

-2-

外務省

6/23 (午)
差支ない施設方
御井統幕中統幕
調整補佐へ説明

アメリカ局長
参事官
北米才一課長

秘密標記（赤色）

（　　）第 149 号

昭和 47 年 6 月 18 日

外務大臣　殿

在準備委代表事務所
高瀬代

（件名）防衛施設方調査団日程送付

引用公・電信日付・番号	6月17日付往電オ138号

標記日程3部別添送付申上げる。

付属添付 2　付属空便（行）□　付属空便（DP）□　付属船便（貨）□　付属船便（郵）□

本信送付先：
本信写送付先：
配付送：

GA-3-1　在外公館

要処理
首席事務官
海外調査
漁業
航空
科学協力
連絡調整
調査
カナダ
局長
次官

外務省受信
45.6.19
収受

一部次回施設庁に送付については如何かと思います（三ツ）06.

DRAFT 渡中元伏了 参事官了 防衛施設庁初来日程 DRAFT

REPRESENTATIVE OF THE COMMANDER IN CHIEF PACIFIC
IN THE RYUKYUS
APO SAN FRANCISCO 96331

RIJC

SUBJECT: Visit of DFAA Labor Survey Group to Okinawa

TO: SEE DISTRIBUTION

1. A group of five (5) civilian officials of the Japan Defense Facilities Administration Agency (DFAA) and a representative of the Japanese Foreign Ministry will visit Okinawa during the period 16 June 1970 to 24 June 1970 to obtain information on the matters pertaining to local nationals employed by the U.S. Military Services on Okinawa. Members of the group are as follows:

NAME	POSITION
Kibachiro Kanayama	Labor Coordinator
Kazuo Kobayashi	Ass't Chief, Labor Planning Sec
Hamao Toba	Ass't Chief, Labor Fiscal Admin Sec
Kazuo Fukasaku	Ass't Chief, Labor Wage Admin Sec
Masaaki Okamoto	Ass't Chief, Accounting Sec
Hamanaka	Rep. Ministry of Foreign Affairs

2. Quarters:

GUEST	QUARTERS	PHONE
All Members	Tokyu Ryukyu Hotel	388-2151

DRAFT DRAFT

3. Itinerary:

WEDNESDAY - 17 June 1970 (Place: USCAR)

TIME	ACTIVITY
1030-1200	Briefing by USCAR Labor Department Director on Labor Ordinances, make up of work force, structure of Okinawa Labor Movement, etc.
1200-1400	Lunch
1400-1530	Discussion on morning briefing
1530-1700	Briefing on organization of U.S. Civil Administration and relationship to GRI

THURSDAY - 18 June 1970 (Place: USCAR)

TIME	ACTIVITY
0900-1030	Briefing by USCAR Legal Department on laws and regulations of GRI, common law and judicial procedures.
1030-1200	Briefings on employee categories, appropriated and non-appropriated funds, contract employees, and concessionaries
1200-1400	Lunch
1400-1600	Discussion with Mr. Burke on reemployment problems, placement, and coordination with GRI, US, and Ryukyuan Chambers of Commerce
1600-1700	Summary and Review of morning and afternoon meetings with Director of Labor

DRAFT

D R A F T

RIJC
SUBJECT: Visit of DFAA Labor Survey Group to Okinawa

FRIDAY, 19 June 1970

TIME	ACTIVITY
0900	Pick up at Tokyu Ryukyu Hotel
0900-0915	Enrouto to Naha Port
0915-0945	Tour of Naha Port
0945-1005	Enroute to MSA
1005-1035	Tour of MSA
1035-1045	Enroute to Camp Boone
1045-1050	Tour of Camp Boone
1050-1055	Enroute to Camp Mercy
1055-1105	Tour of Camp Mercy
1105-1120	Enroute to Camp Sukiran
1120-1200	Tour of Camp Sukiran
1200-1330	Lunch - Top of the Rock
1330-1345	Enroute to Kadena AB
1345-1430	Tour of Kadena AB
1430-1450	Enroute to Camp Hauge
1450-1500	Tour of Camp Hauge
1500-1515	Enroute to Camp Courtney
1515-1530	Tour of Camp Courtney
1530-1605	Enroute to White Beach
1605-1615	Tour of White Beach
1615-1720	Enroute to Tokyu Ryukyu Hotel
1720	Free time

DRAFT

D R A F T

RIJC
SUBJECT: Visit of DFAA Labor Survey Group to Okinawa

MONDAY, 22 June 1970 (Place: JSLC)

TIME	ACTIVITY
0900-1200	Discussion with JSLC on labor management, military labor management organization, and control channels
1200-1400	Lunch
1400-1700	Briefing by JSLC on labor contracts and labor-management agreements
1700	Free time

TUESDAY, 23 June 1970 (Place: JSLC)

TIME	ACTIVITY
0900-1200	Meeting with JSLC on Civilian Personnel Regulations and practices of all Services and ORE
1200-1400	Lunch
1400-1700	Briefing on wage system for base workers
1700	Free time

WEDNESDAY, 24 June 1970 (Place: JSLC)

TIME	ACTIVITY
0900-1200	Discussion with JSLC on labor problems and comparison of Ryukyuan and U.S. Forces Japan labor-management organizations
1200-1400	Lunch
1400	Exit interview with Chairman JSLC and Director of USCAR Labor Department

D R A F T

DRAFT

RIJC
SUBJECT: Visit of DFAA Labor Survey Group to Okinawa

4. Administrative Instructions:

a. Billets, transportation, and escort will be provided by the Office of the Japanese Government Representatives to the Preparatory Commission in Okinawa except as noted in b, below.

b. On Friday, 19 June 1970, Military transportation and Military escort will be provided by CG, USARYIS, and CINCPACREP, Ry respectively.

c. Military services will provide military escort as required.

d. Briefings in support of itinerary will be provided by USCAR and JSLC.

e. Information Coordinator, HICOM/CINCPACREP, Ry will be responsible for the Public Affairs aspects of the above itinerary.

FOR THE CINCPAC REPRESENTATIVE, RYUKYUS:

MURRAY G. JONES
Colonel, Infantry
Secy, AJC, Ry

DISTRIBUTION:
20 CG, USARYIS
15 CMDR, 313th AD
15 CINCPACREP SEC
2 POLAD
4 CO, MCAF
5 CMDR, FLEACTS
5 USAEDO
5 USCAR
8 RCG
6 PREPCOM
15 JSLC

秘
無限

アメリカ局長
参事官
北米第一課長

防衛施設庁調査団の訪沖について

45. 6. 19
北米第1課(浜中)

本件に関し、先般の小林防衛庁事務官(労務企画課々長補佐)に同行、調査団の調査日程に関す

る米軍当局との打合せ並びに米民政府労働局長の調

査団本隊に対するブリーフィング等の模様下記のとおり。

記

1. 日程

6月14日(日) 那覇着

同 15日(月)

09:30 高瀬大使表敬訪問

10:30 Jacobson 四軍合同委員長

訪問(日程の打合せ)

6月16日(火)

16:50 調査団本隊那覇着

同 17日(水) 09:30 調査団本隊高瀬大使表敬訪問

14:30~17:30 民政府労働局長ブリーフィング

同 18日(木) 東京着

2. Jacobson 大佐(四軍合同委員長)との打合せ

(1) 出席者

日本側、小林課長補佐、浜中外

岡野書記官(なお、施設庁より日本政府事務所に勤務

している鈴木一等書記官他1名は交通渋滞(雨天のため)により不参)

米軍側、Col. Jacobson 他4名

(別紙1参照)

(2). 打合せの模様

(イ). 小林補佐より、今回の調査団の日程、目的等については、さきに外務省を通じ配慮方依頼してあるが、と述べたところ、「J」大佐は、数日前在米大使館キリヨン書記官より要旨で調査団訪沖の連絡受けたが、英文の Survey plan は今朝入手した次第である。このプランはまだ検討していないが、調査団は具体的に何を調査したいのか知りたいと述べた。

(ロ). よって小林補佐より、今回の調査依頼については、5月15日外務省の佐藤事務官とともに在米大使館キリヨン書記官へ説明、調査用の日程、調査事項等の準備をすすめ

GA-6 外務省

(米側コメント：毎月月例の件にかこつけ屡々「探りのボール」を投げてきており、今後要注意)

に関する資料を手交し、米側の配慮方依頼してあり、前記(イ)の「J」大佐の発言は意外であるが、今回の調査目的は軍関係労務者に対する法令の適用を調査し、返還時にスムーズに移行せしめるための基礎的調査であり、16日調査団本隊の到着までに当方の希望する調査日程を作成方重ねて申入れた。(なお、岡部書記官よりも調査目的の書物は、さきに本省の訓令に基き、当事務所の担当官より先方に説明済みであると付言した。)

(ハ). 上記に対し、「J」大佐より軍労関係法令等送付は6月6日書留便で発送中の「J5」

GA 6 外務省

(註:依頼より、右事前に大使館ナリオン参事官に対し、ヨコタソン大佐にこの趣旨を伝えるよう申し入れ方を指示し、その結果のコントロール方ルっき旅に注意勿論申し入れ済み)

に送付済みであり、調査団の必要とする各種資料の大部分はその中に含まれているとおもわれる。何れにしても軍関係調査団については関係部局との事前打合せに万全を期すため(武官室ルートの他)2通向信の余話が欲しく、先のため在京大使館の武官にもcontactすることも

一案とおもわれるとの旅にたのので、小林補佐は本日帰り次第外務省とも協議したいと答えた。(依頼により在京米国大使館別途予定の旨連絡)

(二)、「ま」大佐は当方の申出をうとし、自分(ま)は来週本日の病院へ入院(に関連)するため18日(木)朝本日に発ち、週末には沖縄に帰任するので、6月17日ー18日はUSCARとの打合せ、19日は単独談の視察とし、

22日より24日までの間JSLC関係ブリーフィング、質疑応答等施設庁の要望するラインに沿った日程を作成し、調査団本隊到着(16日)までに同日程を沖縄準備委員会日本国政府事務所に送達すべき合意した。(なお、同日程は16日夕刻入手した。別添2参照)なお、同日程は今回の施設庁調査団の目的が殆んど折りこまれており、金山団長は17日夕刻在岡台使、陽参事官に感謝の意を表明した。

3. USCAR Wiesinger 労働局長のブリーフィング

6月17日午前9時より午後5時までの間

同局長事務室においてUSCAR労働局の機能一般(及び沖縄における労働力等)につきchartによる詳細な

説明があった後、沖縄軍労働者の労働運動は活発ではあるが、若干militantな動きがあり、日本本土のそれとはその表え方、態度が異なっているように思える。日本の軍労は多くの経験を有しており、また、調査団体とも密接でありmilitantな態度はみられないが、何れにしても沖縄の軍労に対してはストライキだけに頼っていたのでは（可も得おとるが）なにことを悟らしめることが肝要であり、沖縄の軍労に対しては沖縄の古い政治家が労組を動かしているように思われるので、この点今後注意を要するであろうと付言した。

4. 調査団本隊到着時の記者会見

偶々当国公使夫妻と同着した為、現地報道

機関は一行の写真をとったのみで、記者会見は行なわれず、一行の到着を簡単に報道したのみであった。

5. 調査団に対する米側の受入

米軍当局は当初日程の作成につき余りにもshort noticeであるとし、やや難色を示したが、当方の説明により事情了解し前記2.(2).のとおり施設庁要求のラインに副った調査日程を作成した次第である。従って今後軍関係についての調査団派遣はその日程、調査目的等の詳細を当局に少なくとも2週間前に通報しておくことが肝要であるとおもわれる。

ジェイコブソン四軍合同委員
との打合せの際の米側出席者リスト

6/15

1. COL. ARTHUR J. JACOBSON
CHAIRMAN OF JSLC

2. MR. EDWARD A. WIESINGER
DIRECTOR OF LABOR DEPT. USCAR

3. LTC. ~~FRANK T.~~ WILLIAM LEWANDOWSKI
ASST. CHAIRMAN OF JSLC

4. LTC. FRANK T. GARTMAN
MEMBER OF REVERSION COORDINATION GROUP USARJAS

5. MR. CLARENCE T. MASHITA
LANGUAGE INFORMATION SPECIALIST
JSLC

GA-6

外務省

秘

注 意
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検関班に連絡ありたい。

電信写

総番号(TA) 31903　　主管
70年6月27日 16時40分　沖縄本省　発
70年6月27日 20時38分　米北1　着

外務大臣殿　　宇南(大使)臨時代理大使　総領事　代理

MLC適用準備

第164号　略

貴電米北1合第2831号に関し

1。施設庁調査団がその調査期間中米側関係者より得た本件に関する先方の考え方は断ぺん的なるも概ね次の通りなる趣。（スズキ同行）

（1）ジョンソンJSLC委員長は金山団長に対し。私見ではあるがと前置きの上。労務者にとつて間接雇用移行後の基本給等の面において。現在よりはむしろ不利となる点が出てくることもあるので。しん重に検討しなければならないと述べた。（ウイシンガー民政省労働局長もスズキに対し同趣旨の発言をしたことがある）（なお。EIEST EA空軍民間人事部長は人員整理対象者を決定する方法につき説明した際。従来当地各軍共勤続年数。語学じゆく熟者等をかんあんして対象者を決定していたところ。本年7月より同一職場。同一職種において勤続年数の短いものから機かい的に決定する在日米軍と同様の方法に変更することとなつている旨述べた。）

外務省

秘

注 意
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検関班に連絡ありたい。

電信写

（2）米側は各軍とも給与計算については電子計算機を導入しているところ。間接雇用移行後においても経費節約のため右システムが必要であると強調した。

2。米側のブリーフイングを受けた際。先方は間接雇用移行を前提として説明ないし質疑を行なつたが。全般を通じて受けた印象は次の通り。

（1）各軍担当官は。今では間接雇用移行を前提として。右制度を検討しており。上記人員整理対象者決定方法。退職手当支給率のぜん次改定等土木制度の一部は運用面で既に採り入れている模様であるが。土木制度への完全移行については技術的に種々困難な面が生じ得るとの感触を持つているものとみられる。（これについては一部は知識不足に起因するものがあると思われるので当地担当官に対し。今後機会ある毎に理解せしめるよう配慮したい）

2）間接雇用移行に伴う経費増につき深い関心を有しており。この問題が今後の重要なポイントとなる可能性は十分にある。

（ ）

外務省

別途コピー ○条約課長 ○法規課長 ○安全保障課長

北米オ一課長

防衛施設庁派遣沖縄調査団の報告等周俾通知

45. 6. 29
北米オ1課

本件報告等及び意見交換の会議を下記により開催しますので、通知します。(なお、出席者の氏名を米北1.「浜中」内線446まで連絡願います。)

記

1. 日時　　7月2日(木) 2:30 p.m.

2. 場所　　235号会議室

3. 防衛施設庁の出席者 (2名)
金山労務連絡官(調査団長)
小林労務企画課々長補佐(団員)

(注) 記載事項なし (住所のみ)

GA-6　　外務省

秘 無期限

条約課長
法規課長
安全保障課長
アメリカ局長
参事官
北米オ一課長

防衛施設庁調査団の山中長官に対する報告

45. 7. 11
北米オ1課

防衛施設庁労務企画課(小林課長補佐)より、さきに訪沖した施設庁労務関係調査団の金山団長(労務連絡官)より前記小林補佐は、昨10日(金)山中長官を往訪、調査についての報告を行なった(約40分位)ところ、長官質問中注目されるべき点として下記のとおり発話回報があった。

記

1. 復帰前における周接産傭の適用問題

(1). (長官より復帰前に周接産傭を実施することとつき米側と話し合ったかとの質問にたいし)

金山団長より、今回の調査団の目的は沖縄等の

(注) 別紙写のとおり沖縄住民等の陳情書を手渡すため来訪した旨報告あり(堆生)

GA-6　　外務省

157

についての実態把握が目的であり、調査団より
米側に対し質問乃至説明は行なわず、また米側
よりもこれんつき何も言い出さなかったが、琉球
政府幹部（知念副主席、仲松労働局長及び喜
友名職安部長）それぞれ訪問した際喜友
名部長が「屋良主席は安保条約そのものと
反対しており、安保の枠内で復帰前に内接触
衝を実施することには賛成できないとの態度
である」旨述べたと報告した。
(2)、これに関し山中参事官は直ちに対策方加藤
総務部長を呼び、岸沖縄事務局長に対し
電話で前記琉政側の言明いつき文書を
もって確認方命じた。

(3)、対策方よりの連絡によれば、本11日朝岸沖
縄事務局長は知念副主席んつき確めたとこ
ろ、前記(2)の如き発言は行なつていない旨
確認した旨報告があった由である。
(※)（なお、6月30日喜友名部長上京の際喜友
労働部長を訪問した際、前記(2)と同様
の趣旨を述べ長坂部長との間に質疑応
答があった由である。）

2、資料の収集
（長官より、伝えられるところよれば、施設、基
地に関する資料が集らないようで外との交渉
申出相手と交渉して全部取寄せるか
んおし）
金山団長より資料は目下外交経路を通じ
入手方依頼中であり、何れ入手できると思

確信していると述べたところ，長官は了解された。

3．俸給その待遇

（長官より本土と沖縄との格差んつき質問があったのんぱし）

金山局長より俸給は本土のそれと大体同じ位であり，その他の待遇についてもそれ程大きな差位はみられないと説明した。

沿相局施設課
小谷部員（説明）

昭和45年度第1次沖縄施設調査団派遣計画（案）

1 目的：沖縄施政権復帰に伴い，自衛隊が取得すべき施設及びこれに関連する設備器材等の現況を調査するとともに，昭和46年度に実施すべき建設工事，改修等の所要を確認し，昭和46年度予算概算要求に必要な資料を得る。
（追加要求となる（時期的な））

2 構成：別表第1のとおり
（当初は40名の枠に入れた，しかし現地で当たるのは40名が一団となってまとまる組かない）

3 時期：昭和45年8月30日（日曜日）から昭和45年9月6日（日曜日）まで
（短期間に和手方と）

4 行先：沖縄所在米軍基地の一部（那覇，ホワイト・ビーチ（等））
（相手方日本側とも協議）
（ヨガト，ミヤコ，アワセ）
（細部日程は出張者間で協議し，団長が決定する）

5 調査事項：別表第2のとおり

6 渡航方法：航空自衛隊YS-11（1機）を使用する。

（米側との連絡，従事中及び沖縄との連絡，官房各課相手部局）

（別紙第1）

構　成

No.

内局　経理局工務官（団長）　工事関係の課長相当

防衛局防衛課又は運用課　1名
（計画全般及び航空管制全般担当）

経理局会計課　1名
（予算担当）

経理局施設課及び工務官室　各1名
（施設計画全般及び工事計画全般担当）
計5名

統幕　（防衛局　第3室及び第4室　各1名　経済安保
（通信電子後方関係及び対米調整担当）
（情報本部　通信課　1名）
計2名

陸幕　第3部　2名
（編成及び業計担当各1名）

第4部　3名
（施設及び工事担当）

第2部別室（電波情報室）　1名
（情報施設担当）
（communication intelligence）

通信課　1名
（通信施設担当）

航空課　1名
（航空施設担当）

施設課　1名
（営繕担当）
計9名

海幕　防衛課　2名
（編成及び業計担当各1名）

管理課　3名
（施設担当1名及び工事担当2名）

通信課及び武器1課　2名
（通信施設及び関連器材担当各1名）

航空機課　1名
（航空施設担当）

補給課　1名
（補給施設担当）
計9名

No.

空幕　防衛課　　1名
（編成及び業計担当）

運用課　　2名
（航空管制及び通信運用担当各1名）

施設課　　~~3~~ 4名
（飛行場、レーダーサイト、通信施設及び
ユーティリティ担当各1名）

厚生課　　1名
（宿舎、給食担当）

装備課　　2名
（施設関連器材担当）

補給課　　1名
（補給施設担当）

整備課　　1名
（整備施設担当）

計12名

施設庁　建設部　　3名
（建設工事積算基礎データ担当）

合計40名

（別紙第2）

要調査事項

No.

共通関係事項
1 通信施設建設の位置選定と経費見積
2 宿舎施設建設の位置選定と経費見積（用地費を含む）
3 建設工事の積算基礎資料の収集

陸自関係事項
1 ナハの隊庁舎予定施設の現況と、改修等の所要、経費見積
2 航空基地候補施設の現況と改修等の所要、経費見積
3 地連施設に関する事項

海自関係事項
1 ホワイト・ビーチにおける隊庁舎等建設の位置選定と経費見積
2 ナハの隊庁舎等予定施設の現況と、改修等の所要、経費見積

空自関係事項
1 ナハの滑走路延長等の経費見積
2 ナハの隊庁舎等予定施設の現況と、改修等の所要、経費見積
3 サイト関連工事等の所要、経費見積（用地費を含む）
radar site（SAM ×53）